



地域に根ざした 消防団活動

高島市消防団
団長 井川 正一さん

全国各地では、台風をはじめ竜巻、局地的豪雨等による災害は後を絶たず甚大な被害をもたらしています。

高島市でも、琵琶湖西岸断層帯による地震、南海・東南海地震等が発生した時の被害が懸念される中、消防団に対する期待が高まり、地域に密着した消防団の果たす役割は、今まで以上に重要となってきています。

市消防団では、今後とも「自分たちのまちは自分たちで守る」という理念に基づき、訓練・研修等に励み、地域密着性、要員動員力等の特性を活かしながら、市民の皆様の期待に応えるよう努力して参りたいと考えております。

秋の火災予防運動

消すまでは
出ない行かない 離れない

11月9日～15日

○住宅用火災警報器の設置推進
※悪質な訪問販売が増えて
います。ご注意ください。

○1日消防官
高島市防火保安協会の協力により、市内の4事業所から選出された1日消防官らが市内の保育園等を訪問します。

○消防訓練
市内の老人福祉施設の方と消防隊との連携確認を行います。



特集 地域を守る 消防団

全国に 88万人の同志

点検、地域での年末の夜警活動などの啓発活動、防災訓練への協力も行います。消防団の活動に必要な専門知識や技術を習得するための研修にも参加しています。

消防団は、全国におよそ2200団が設置され、約88万人の消防団員が地域のために活動しています。そのうち女性団員は約2万人に上り、女性が活躍できる場も多く、今後ますます必要とされています。

消防団には、18歳以上で健康な方であれば男女問わず入団することができます。消防団員は、非常勤の

災害時、素早く現場に駆け付けける消防団。「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛で、地域の安全と安心を守るために活躍している人たちが集まるボランティアの組織です。今回は、そんな頼もしい存在である消防団の活動をご紹介します。

二足の草鞋を履く

消防団は、地域を愛する市民の有志で構成された組織です。常備消防と呼ばれる消防本部や消防署と違い、生業を持っている住民が、火災、風水害、地震などの災害時に活動を行う非常備の消防機関です。消防団員は、一人ひとりが、それぞれの仕事を持ちながら、ひとたび火災や災害が発生すれば、昼夜を問わず出動し、消火活動や災害防御活動に当たります。



多岐にわたる 消防団の活動

消防団は災害時だけでなく、普段から様々な活動をしています。

○災害時には…

火災、風水害、地震などの災害時には、消防署の職員とともに消火活動、住民の避難誘導、被災者の救助・救命活動に当たります。

○平常時には…

常に安全、迅速、正確に対応できるよう消防操法などの訓練を行い、消防活動のスキルアップに努め、チームワークを磨いています。また、消防車両などの



原動力は 郷土愛と絆

り、ピーク時の半分以下まで落ち込んでいます。地域防災力の低下が懸念されており、団員確保は今や全国的な課題となっています。

団員確保が 全国的な課題

特別職の地方公務員となり、少額ながら報酬や出勤手当が市から支給されます。また、公務中に怪我などをした場合には災害補償もあり、条件を満たせば退職金も支給されます。

災害はいつどこで起こるか分かりません。発災時に地域のことをよく知っている消防団は心強い存在であり、その活躍は広く市民の信頼を得ています。震災以降、消防団に寄せる期待や役割はますます高く大きくなってきていますが、団員数は全国的に減少傾向にあ

消防団員のうち約7割が事業所等に勤める「サラリーマン団員」です。そのため、仕事中に災害出動したり、職場を休んで訓練等に参加することはなかなか大変なことです。また、訓練は厳しく、災害現場では、時に危険な目に遭うこともあります。それでも活動を続ける消防団員の原動力となっているのは、「大切なものを守りたい」「我が街を守りたい」という地域を愛する熱い思いと、同じ思いを共有する仲間たちとの絆があるからです。消防団活動を通じ職場や年代を超えたつながりのなかから生まれる絆は、団員の心を強くたくましくしてくれています。